



上之坊だより

平成29年7月3日
第76号
福山市大門町大門325
電話 (084) 941-1031

八月	お盆づとめの予定
一日	東谷・早期希望
二日	中谷・駅前・西谷
三日	横道・吉浜・能島
四日	幕山・大谷
五日	石樋・古地
六日	大門一〜四丁目
七日	大門町南部
八日	曙・新涯・川口
九日	手城町方面
十日	福山市東部
十一日	引野町・蔵王方面
十二日	福山中心部・西部
十三日	赤坂・尾道・三原
十四日	幕山台・大谷台
十五日	青葉台・伊勢ヶ丘
	福山市東部
	笠岡・倉敷方面
	新仏・福山市北部
	新仏・その他
	新仏・その他
	新仏・その他

真言宗の基礎知識(その三十一)

(弘法大師)

(承前)高野山にお大師様が道場を作られるときに、最初に造営されたのは、金堂、根本大塔、明神社、僧坊でありました。それらの建物は高野山の中心部、大伽藍にあります。その中でもひと際高い場所に、金堂や根本大塔、明神社や僧坊(御影働)が建っております。と云うよりここから高野山が開けていきました。

平成二十七年四月、高野山開創千二百年記念法要に合わせて再建された伽藍入口の「中門」の、その正面にあるのが金堂です。

高野山すべての本堂であり、伽藍の中心がこの建物です。今の金堂は昭和の初めに再建されたもので、以前の金堂は火事によって焼失してしまいました。大正時代終り頃までであった前の金堂は今の金堂より遙かに立派であったようですが、いまも毎日ここで勤めがされて、大きな行事や法要はここで行われております。

しかしお大師様が最初に作られたときには本堂というより教えを勉強する大講堂のようなものであったようです。

わかりやすいお経を？

時代の変化によって今までやって来たことも変わってきた。

家庭や家族の生活習慣が変わり、家のご仏壇も洋間用の家具調のものもある。

法事などでご当家でできない場合、お寺や会館を利用する機会も増えてきた。

しかし、中身のお経は以前からまったく変わっていない。普通の法事で約四十分程度、そのうち半分以上がずっと聞いても分からない漢文のお経である。

分かりやすいお経のほうへ変えたほうが良いのだろうか。それとも今までどおり伝統に則り、分からない方が良いのだろうか。

一度作法を変えたらもう元へは戻れないジレンマを抱えている。

弘法大師聖語抄

いま あ いちみびぜん
未だ有らず、一味美膳をなし、

へんおんみよきよくしら もの
片音、妙曲を調ぶ者は。

料理の味付けに一つの調味料しか使えなくて果たしておいしい料理が作れるか、と問いかけています。

お醤油だけで味付けをしたおうどんはおいしいでしょうか。一つのことを探求することとはとても大事ですが、同時に広い視野を持たないと偏りが出てしまう、とお大師様は言われています。

一つの高さの音だけを使う

料理の味付けにはモールス信号のようなものでしょう。高低があれば旋律となり、音色を増やせばそれが音楽となります。

お大師様は「真理を求めるときには多くの先生を持つことが大事」とも説かれています。

心の視野を広げ、他の分野の勉強や様々な経験を重ねたならば、人生は賢く、彩り豊かな、深いものになるように思えます。

ユギ塔改修計画について

昨年より準備をしておりましたユギ塔の作り直しですが、計画では六、七月に地盤の造成も終わり立柱の予定でした。

しかし委託をした大森工務店の受注工事が立て込んでいて、人材不足のため本格着工に入れずになっています。

設計については、渋谷設計士さんにも総代会などでご相談をいただき、現在の場所から東側に少し下ったところに建立することになりました。

今のユギ塔と同じ仕様で大きさや材質も同じに制作をしますが、細部の造りは工夫をして、近くに行っても見栄えのするものを目指そうと考えています。あくまでも広告と象徴のための塔ですので、廉価な建設費用での制作を予定しております。

総代会や世話方会でご承認いただいた事業ですが、しばらくは時間の延長もやむを得ないかもしれません。

なお、上之坊奥之院大師堂に木彫りの弘法大師像と不動明王像が七月下旬からお祀りされますが、これは匿名の方が製作ご寄進をされたものです。

身近にある仏教語

一 大事 (いちだいじ)

法華経というお経には

「一大事因縁」とありま
すが、これはお釈迦さま
がこの世に現れた理由

「因縁」の事です。

お釈迦様は、偉大な智
恵をもって人に道を示し
導くために「一大事」つ
まり「たつたひとつの偉
大な目的と事業」の為に
この世に現れました。

時代は下って私たちに
とつても「ひとつのおお
ごと」を意味するように
なりました。

さらに「大事の「一」
が取れて「大事」となり
「大切な事」を示す言葉
に変化したようです。

お施餓鬼供養のご案内

七月十五日午後六時三十分より

せがきくよう

おせがき(ロウソク)

法要を七月十五日(土

曜)夕方六時三十分より
行います。

この法要は灯明・食物
やお水をお供えして、多
くの諸精霊の成仏を祈る
法要で別名「施食会」と
も言われています。

地獄や餓鬼道に墜ち、
飢えや渇きの苦しみで成
仏できない精霊に水や食
物を供えて成仏できるよ
うに願ひ、また最近亡く
なられて間もない仏様に
は一層の菩提の安らかな
る事を祈る法要です。

お盆には各地でいろい
ろな供養の行事が催され
ますが、このおせがき法
要がその元の姿であり、

古い歴史を持つ由緒ある
儀式であります。

今も多くのお寺で続け
られているおせがき供養
ですが、上之坊では亡く
なられて三年くらいまで
の仏様を中心に、有縁無
縁(うえんむえん)の三
界万霊への供養をいたし
ます。

午後六時半に夕勤行を
始めて夕暮れを待ち、ご
詠歌や読経をし、経木塔
婆(ききょうぎとうば)に
水をかけて回向をし、最
後にロウソクに点灯をし
てまいります。

新仏(しんぼとけ)様
などで特別に成仏をお祈
りいただく場合は、これ
に二尺半の塔婆を加えて

ご用意いたします。でき
ましたら前日までに電話
などでお知らせくださ
い。

この志納金は五千円と
なっております。(記念
品と記念のお菓子付)
また一般参拝の方には
経木塔婆とロウソクをお
渡しして供養をしていた
だきます。

一家族二千元をお願い
いたします。(記念のお
菓子付)

この一般受付は当日十
五日夕方六時十五分より
開始いたします。

この法要終了後、今年
のお盆勤めの日時のご希
望を受付けます。新仏様
などお盆中にご希望の方
はお残りください。